

## オイル交換時の注意

- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

入れ過ぎると――

各回転、摺動部の抵抗増大による出力低下、運転中の油温が上昇し、オイルの劣化を早めます。

ブリーザーパイプからのオイル洩れ、湿式多板クラッチではクラッチが切れにくくなったり、チェンジファイリングに悪影響を与える要因となります。

少な過ぎると――

回転部、摺動部へのオイル供給量が少なくなり、エンジンの摩耗、焼き付き等の要因となります。

- ホンダウルトラオイルは、製造段階で添加剤がバランス良く配合されたオイルです。さらに市販の添加剤を注入すると、配合バランスがくずれ、油性が変化し潤滑性能に大きく影響します。ホンダのエンジンには、添加剤の追加は不要です。ご注意ください。